

第 8 回報告書

2025 年 12 月

伊藤絵美



(バークレー近辺のワインの名産地・ナパにあったクリスマスツリー)

1. はじめに

カリフォルニア大学バークレー校で Chemistry の PhD をしている伊藤絵美です。ついに 4 年生になってしまいました。2025 年の下半期は初めて大学から遠く離れた国立研究所(後述)で測定をする予定があり、その準備とその後のデータ分析に追われた結果、すごくあっという間に終わったと感じました。このままあっという間に 5 年生になってしまうのではと思い、戦々恐々としています。

2. 生活

2.1. 米国大学院学生会の活動

財団の夏の交流会での交流のおかげで、米国大学院学生会の代表・副代表を引き継いでくれる頼もしい後輩たちが見つかりました。代表としての最後の説明会運営として、現在 2025 年冬の海外大学院留学説明会の準備を進めています。今後も米国大学院学生会が末永く発展し、海外大学院留学についての情報を広く発信していけるように願っています。

2.2. エンジンの強い車



(左：Automobile Museum のクラシックカー、右：スポーツカーの運転楽しかった)

日本にいた頃は完全にペーパードライバーでしたが、留学して 1 年経った頃から運転するようになり、気づいたら車にくわしくなってきました。たまたまハイパワーエンジンを積んでいるアメリカ車のダッジを運転したら楽しかったのがきっかけで、エンジンの強い車がかっこいいという思想が芽生えてきました。その結果、この夏はサクラメントにある California Automobile Museum に行ったり、ベンツのスポーツカーを借りて乗ってみたいしました(上記写真参照)。留学のおかげで運転ができるようになった結果、新しい趣味ができてよかったです。

3. 研究

これまで色々試行錯誤してきましたが、卒業までに完成させたいプロジェクトが明確になってきた気がしています。この半年の進捗で特筆すべきは、1 年前くらいから計画していた National High Magnetic Field Laboratory というフロリダにある国立研究所での測定を実際に行えたことです。私が行いたかった測定にはかなり強い磁場 ($> 30 \text{ T}$) まで磁場を掃引することが必要で、そのような測定条件を実現できる設備は世界的に見ても珍しいので、はるばるアメリカの東側まで行きました。測定シフトが毎日午後 4 時 - 朝 3 時だったのは想定外でしたが、無事目的のデータを得ることができました。このデータを含めた論文がまとまったらまた実験の詳細を報告書に書きたいと思います。

この研究所はフロリダ州の中でもタラハシーというところにあるのですが、着いてみたら全然アジア人がいない町でびっくりしました。日本食のおいしそうなお店やアジア系スーパーが全然なく、バークレー周辺は日本からの留学生が生活するには恵まれた方なんだと思いました。

4. 最後に

なんとなく卒業までに終わらせたいプロジェクトや卒業後に行きたい進路が明確になってきて、5年間は長いと思って入学したはずが、短い気がしてきています。振り返った時によい PhD 生活だったと思えるように最後まで全力で駆け抜けたいです。